



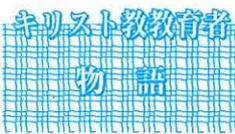






### "Mastery for Service"を提唱した 関西学院第4代院長C.J.L.ベーツ

Cornelius John Lighthall Bates (1877-1963)



①

ベーツは、カナダ・オンタリオ州に生まれ、クィーンズ大学卒業後、1902年にカナダ・メソヂスト教会宣教師として来日し、最初の8年間は主として東京と甲府の教会における宣教師活動に従事しました。

1910年、米南メソヂスト監督教会によって創立された関西学院の共同経営に、カナダ・メソヂスト教会が参与すると同時に、ベーツは神学校教授として就任しました。

12年に新設の高等学部長となつた時、「Mastery for Service」(奉仕のための練達)を提唱し、20年に第4代院長就任とともに、それは学院全体のスタイル・モットーとなつていきます。

院長としてベーツは、20年間にわたり学院発展のために尽力し、学院の礎を築きました。その間、小山東助、河上丈太郎等の優れた学者を招いて学院の学問的レベルの向上に務め、また日本で最初に視覚障がい者の方々に高等教育の道を拓き、多くの学生たちに慕われ、平等で温かい人格的教育に努めました。また大学昇格に際しては、渡米して連合教育委員会およびアメリカ・カナダ両国伝道局の承認を得、32年に大学開設を果たし、初代学長にも就任しています。

教育同盟に対するベーツの貢献としては、1925年に同盟の会長に選出され、また33年には「基督教々主義宣言」作成を提言してキリスト教教育の在り方をめぐめる論議を喚起するなど、指導的な役割を果たしました。

神田健次  
関西学院大学名誉教授・学院史編纂室顧問

### キリスト教学校の教員を目指す 関東地区新入生ガイダンス開催される



3月29日(木)午後1時半から4時まで、川洋先生(国際基督教大学)によるガイダンス。その後場所を集合室に移してガイダンス「教職課程履修と後継者養成プログラム」が実施された。

3月29日(木)午後1時半から4時まで、川洋先生(国際基督教大学)によるガイダンス「教職課程履修と後継者養成プログラム」が実施された。

このガイダンスは後継者養成部会の関東地区のガイダンスとして毎年行っているもので、今年で11回目を迎えました。将来教職を目指すこととする新入生に、大学で学ぶことの意義、大学の教職課程の仕組み、キリスト教学校教育同盟と後継者養成プログラムについて知ってもらうことを目的として開催されています。

今回は12名の新入生が、会場の銀座教会東京福音堂センター大ホールに集まりました。

プログラムは石澤友康先生(東洋英和女学院中野部長)の司会によって行われ、開会礼拝、植木紀夫委員(桜美林大学)の挨拶、西原康夫先生(立教大学)の講演、大と語り下さいました。

その後、川洋先生によるガイダンス「教職課程履修と後継者養成プログラム」が実施された。先生(国際基督教大学)が、ガイダンスの趣意を述べ、後継者養成プログラムの目的、新入生と現職生との交流の重要性を述べ、教員を目指すための準備やサポートにあたることを語り、真理は自分が握るのではなく、真理の方が私に近づいてくること、まだ知らない準備やサポートにあたることを語り、今年も後継者養成プログラムを、ガイダンスの現場で体験してほしいと語り、また新入生の交流では新入生のデモグラフィックをリードして、最後に水とてくれました。

川洋先生(玉川聖学院)によれば、キリスト教学校教育同盟とその働きを紹介がなされ、祈りを持って参加者が各大学において成長し、将来キリスト教学校の教員として、キリスト教教育の担い手の役割を担うことを願っています。

### キリスト教Q&A

—キリスト教の理解を深めるために—

森田喜基

(頌栄短期大学宗教主事)

### 「三位一体」ってどういうこと?

先日、学生から「先生、試験持ち込みOKなん？神やわ!!」と言われました。私は勿論「神」ではないので「その代わりメチャ難しいけどな!!」と返しました。今日そこら中に「神」が溢れていますが、今回はキリスト教が唯一の神としている「父・子・聖霊」の「三位一体」の神について考えてみたいと思います。

まず三位一体とは、元々一つのもので三つの「位相」(ラテン語ではペルソナ)で表れるということを示していますので、「三つで一つ」なので、「三人一体」や「三者一体」ではありません。

学生A「イエス・キリストって神なん？じゃあ、神様って誰なん？」と聞かれたことがあります。「ちゃんと授業しいや!!」と声が聞こえてきそうですが、まず「父」である神は、直接見ることも触れることもできませんが、この世の全てのものを創り、私に命を与えてくださった創り主として聖書に記されています。その創り主が、私たちを愛するが故にその一人「子」イエスを地上に送り、その「子」は十字架にかかって世の人々の罪を贖った(払うべき代価を支払った)というのがキリスト教の中心の教えです。その「子」の言葉と行いの中に神の働きがそのまま現れており、「子」なる神として

人間の前に現れた期間が、イエスの生涯です。そして「聖霊」ですが、新約聖書「使徒言行録」によるとイースター(イエスの復活)の後、弟子たちが集まっている部屋に、炎の舌のような形で出現し、それぞれが様々な言葉でキリストのことを話し始めたのです。この日をペンテコステ(聖霊降臨日)と言います。

聖霊、それは人と人との間にあるテレパシーや以心伝心のようなものではありませんし、「霊」という言葉から連想される「幽霊」のようなものでもありません。「聖なる風」とも訳すことができ、私たちの心を吹き抜けて奮い立たせたり、希望を胸に抱かせたりするものです。例えば木の葉が見えない風に揺られるように、見えないけれども私たちが動かす神の力として、神の見えざる手として、イエスが天に帰った後、その代理として私たちの傍にあるものなのです。

「聖霊は神である」と最初に言ったのは、二世紀の神学者テルトゥリアヌスですが、381年の公会議で「三位一体の神」は宣言されました。キリスト教はそれ自体を信仰の対象としているというよりは、三つそれぞれのアプローチで神が私たちに関わっているという信仰に立っていると考えるでしょう。

### 事務局だより

「目には青葉(山ほどとぎす。初経(山口素堂。字余り。季重なり。初夏の句。日本の季節感が見事に伝わる句です。早稲田7階の事務局長の緑も日増しに豊さを増し、めぐる春の息を感ずる季節になりました。2面の動物欄では各校の大きな動物変化が伝えられています。また近年

- 開始された同盟の新たな取り組み「新規継続事業」の紹介が掲載されています。これらへのご理解をお願いします。
- 今号の「キリスト教教育者物語」は3校の掲載。貴重な記録であり、時代を超えてなお、私達に示唆を与えてくれます。受け継ぐこと、変えていくことが交差する季節に向けて、同盟の研修会が用いられますように事務局長
- <行事予定>
- 6/8,9 第106回定時総会 (関東学院)
  - 16 第63回東日本小学校教職員協議会 (平和学園小学校)
  - 7/21-23 第62回事務職員夏期学校(東山社)
  - 27 第6回西日本小学校教職員協議会 (同志社国際学院初等部)
  - 8/7-9 第5回中堅教員トリート (同志社びわこトリートセンター)
  - 20-21 第3回全国災害支援連絡会議 (横須賀学院)
  - 22-23 第62回大学部会研究集会 (ホテルエミシア札幌)
  - 23-24 第8回中堅事務職員研修会 (金城学院大学)
  - 24-25 第5回大学新任教員研修会(東京)
  - 31-9/1 第4回全国事務局長・事務長会議 (明治学院大学)